

平成26年度第4回袖ヶ浦市子ども・子育て支援会議
 (第1回袖ヶ浦市次世代育成支援対策地域協議会)

- 1 開催日時 平成26年11月5日 午後2時開会
- 2 開催場所 市役所旧館3階大会議室
- 3 出席委員

委員長	片倉 憲太郎	委員	杉本 宏一
副委員長	田中 直子	委員	神崎 保
委員	池田 美佐子	委員	平畠 亘
委員	藤野 宜英	委員	和田 幸子
委員	奥野 智禎	委員	大熊 賢滋
委員	眞藤 匡雄	委員	中岡 秀昭
委員	竹元 悦子	委員	花澤 弘子
委員	小島 直子	委員	征矢 真理子

(欠席委員)

委員	松本 良二	委員	注連野 和美
委員	高橋 秀樹	委員	

- 4 出席職員

福祉部長	在原 昌秀
子育て支援課長	苅米 幹隆
子育て支援課子育て環境推進室長	今関 磨美
子育て支援課副参事(児童母子班副参事取扱)	今井 辰夫
子育て支援課副課長(保育班長事務取扱)	泉水 雄一郎
子育て支援課子育て環境推進室副主査	小久保 雄希
教育部学校教育課副参事(指導班長事務取扱)	庄司 三喜夫
教育部学校教育課学事保健班主任主事	糺谷 直子

- 5 傍聴定員と傍聴人数

傍聴定員	5人
傍聴人数	0人

6 議 題

(1) 次世代育成支援後期行動計画推進状況報告について

【資料 1 - 1 ~ 資料 1 - 4】

(2) 平成 2 6 年度子育て環境推進の拡充内容について【資料 1 - 5】

(3) 次世代育成支援行動計画部分 (案) について【資料 2】

(4) その他

7 議 事

事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・開会宣言。 ・片倉委員長、挨拶。 ・議事進行を片倉委員長に移す。
議題 (1) 次世代育成支援後期行動計画推進状況報告について	
事務局	資料 1 - 1 ~ 資料 1 - 4 にて説明
平島委員	資料 1 - 2 の Q 1 4 「子どもに係る事故や犯罪が少なくなったと感じる割合」では 6 2 . 6 % から 7 4 . 3 % となって、安全になったと感じている割合が増えているが、出ている数字が資料 1 - 4 アンケート結果 1 4 ページでは「地域において子どもにかかる事故や犯罪が増加していると感じていますか」と、安全になっていないと感じている人の割合のものとなっている。これはどちらが正しいのか。実際に犯罪が増加したと感じている人は平成 2 5 年度は 9 . 3 % だったのに、平成 2 6 年度の調査では 4 3 . 6 % と大幅に増えている。不安になった人のほうが増えたのではないか。
事務局	資料 1 - 2 の Q 1 4 「子どもに係る事故や犯罪が少なくなったと感じる割合」という記載は誤りで、実際は資料 1 - 4 の 1 4 ページの「地域において子どもにかかる事故や犯罪が増加していると感じていますか」が正しく。安全だと感じていない人の割合が増えたということになる。
平島委員	アンケートの調査結果で、「子どもにかかる事故や犯罪が増加している」と感じている人、まあ感じている人を合わせると 7 4 . 3 % で、前年度の 6 2 . 6 % から約 1 0 % 程度しか変わらないが、「感じている」と断言している人に限ると、前年度 9 . 3 % から 4 3 . 8 % に増えている。この大幅な変化に対し、なにか追加の対策をとる考えはあるのか。市役所だけで対処するというのは無理かもしれないが。

事務局	市民活動支援課と警察との調整や連携を深め、犯罪が少なくなったという実感を持ってもらうように努めていきたい。
平島委員	具体的な策ではなく、連携を強めていくということか。
事務局	現状ではそのように考えている。
藤野委員	<p>木更津警察署の藤野です。犯罪の件数についてお話をさせていただきたい。木更津警察署は木更津市と袖ヶ浦市の両方を管轄に持っているが、犯罪の認知件数、被害届が出された件数は減少している。どれくらい減少しているかということ、9月末現在で、昨年より400件以上、1,800件くらいの数となっている。この件数は昨年に比べ、概ね2割減となっている。犯罪はここ最近減少傾向にあり、千葉県全体でも平成14年からずっと、12年連続で減少している。木更津警察署管内では、平成23年まで11年連続で減少していたが、平成24・25年と連続で100件ずつ上がってしまったが、今年は上がる前の平成23年よりもさらに認知犯罪件数が減っており、減少傾向を取り戻したというようになっている。</p> <p>ただ、犯罪件数自体は確実に減っているが、このように犯罪が少なくなったと感じている人の割合が少ないというのは、大きな事件がいくつかあり、新聞報道で連れ去り事件や中学生誘拐事件などが発表されているせいもある。そういった事件の際、警察では防犯ボランティアに連絡を入れ、警察と防犯ボランティアで見守り活動をするということしている。こうした活動を目にして、逆に犯罪が増えていると感じているのかもしれない。警察としてはボランティアの方、市役所の方と色々な連携して、対策をとっている。</p>
平島委員	小学生の子どもを持つ親の元に、学校区に不審者が出ているという注意喚起のメールの頻度が増えたり、蔵波小学校で連れ去り未遂が起こったりなどして、子どもを持っている親は犯罪が増えているという感覚を持っていて、個人的にはこの調査結果は納得がいった。
事務局	取り組みについてお話しすると、連れ去り未遂事件を受けて、臨時校長会議を開き、共通の取り組みについての指示をした。例えば、地区住民会議に依頼している安全ボランティアを更に募集し、保護者だけではなく地域全体に呼びかける運動を活発にするようにした。また、学校連絡メールも今以上に活発に使うよう指示した。更に総合教育センターに警察官OBを現在2名雇用しており、不審者対応訓練を実施している。また「いかのおすし」運動、「行かない」

	<p>「押さない」「大声で叫ぶ」など色々あるが、それを体操で覚えさせている。実際に蔵波小学校の児童は大声を出し防犯ブザーを鳴らしたということで、連れ去りを防げた。防犯ブザーでも半額を助成している。近隣5市のうち実施しているのは袖ヶ浦市だけとなる。これからも不審者についても危険予測、回避に絞った訓練を続けるように各学校に指示している。</p>
<p>議題（2）平成26年度子育て環境推進の拡充内容について</p>	
事務局	<p>資料1-5及び資料1-3にて説明</p>
花澤委員	<p>資料1-5の4-3「市交通バリアフリー基本構想」について、長浦駅舎が新しくなっているが、駅から出てきて降りるところが、今度はガードレールのない歩道側になった。子どもたちにとって非常に危ないと感じている。所管課は土木や建設になると思うが、その辺りの安全対策の意見は出ているのか。</p>
事務局	<p>そういった意見は特に聞いていない。いただいたご意見を土木建設課に申し伝えて調整を図りたい。</p>
小島委員	<p>資料1-5の1-17「各種相談」について、本年度から発達障害のための相談員を配置していただくということで、不安に思っていた地域の方たちも安心できてとても良かったと思う。この周知方法は、どのような形で行っているのか。</p>
事務局	<p>基本的にはこれから学校に就学される5歳児、それから幼稚園・保育所の児童が対象になる。そこに文書で周知した。</p>
田中副委員長	<p>資料1-5の1-1「子ども・子育て家庭・地域住民等の交流の場の確保」のそでがうらこども館について、1日50名の利用があり、盛況だということだが、資料1-3の1ページの1-1に「放課後児童クラブ未加入児童の健全育成の場」とある。こども館の利用者は未就学児のみと決まっているが、放課後児童クラブ未加入児童も含めて考えているのか。</p>
事務局	<p>そでがうらこども館の事業について、「放課後児童クラブ未加入児童の健全育成の場」と記載しているが、現在、こども館に関しては就学前の児童を対象としている。今後の課題として、放課後児童クラブ未加入児童があるが、現状では未就学児のみとなる。</p>
<p>議題（3）次世代育成支援行動計画部分（案）について</p>	
事務局	<p>資料2にて説明</p>
	<p>（意見特になし）</p>

議題（４）その他	
	（意見特になし）
片倉委員長	本日の議題について終了。
事務局	<ul style="list-style-type: none">・次回会議の開催を12月11日に予定している。・閉会宣言。
	以上